



四 気 折 々

川越町立川越中学校
学校だより第14号
令和4年7月7日

四気=川越中校訓 「 やる気 ほん気 こん気 げん気 」
学校教育目標 『 自立した生徒の育成 -自律・調和・創造- 』のもと
・自分を大切にす る ・他者を大切にす る ・粘り強くやり切る 生徒
・人を大切にす る ・安全で安心でき る ・地域や保護者とともにある 学校 づくりを目指します

学校教育ビジョン 「 重点的な5つの柱から 」
『キャリア教育の推進』先輩の言葉から考える・・・。
教育実習生「森 柚香 先生」から大切な後輩のみなさんに、
メッセージを書いてもらいました。

過去の自分、今の自分、未来の自分。どれも大切な自分。前向きな自分が未来の自分の可能性を膨らませます。素直な自分が大切。素直に聴き入れ、考え、一生懸命に行動してみることで人間は絶対変われます。未来の自分を信じて。(学校だよりNo.11より)

5月30日(月)～6月17日(金)までの3週間、母校である川越中学校で保健教科、保健室の担当として教育実習生として実直に素直に一生懸命取り組んでくれた「森 柚香先生」。私(校長)から最終日に、後輩に向けてメッセージを残してほしいとお願いをしました。私は、森先生の中学校3年間を教諭という立場で担当する学年は違いましたが、彼女の成長を見てきました。



【森先生の教育実習時の様子】

中学校でまじめにコツコツと頑張る森柚香さんも、悩み、しんどい思いをしながらも前向きに頑張る森柚香さんも見てきました。大学4年生となって教育実習生として母校に帰ってきてくれた森先生に「もし、自分のことを語ってくれるのなら、必ず共感してくれる子どもたちはいる。大切な後輩たちに少しでもチカラを貸してほしい。文書としてメッセージをお願いしたい」。森先生は、すぐに「ハイ！大丈夫です！」と笑顔で答えてくれました。内容は以下の通りです。

【 森柚香 先生からメッセージ 】(原文のまま)

5月の末から6月の中旬にかけて、教育実習生としてお世話になりました森 柚香です。みなさん覚えてくれていますか？今日は私が、中学生から大学生になるまでのお話をしたいと思います。

教育実習のときに皆さんの前で授業をしていた姿からはとても想像ができないかもしれませんが、中学生の頃はとても内向的で、人前で発表をするどころか、1対1であっても話をするときには緊張していました。2年生のころにSNSを利用した誹謗中傷を受け教室に入れない時期も続きました。心がしんどくて、担任の先生や養護教諭の先生に相談に乗っていただくこともありました。このような経験からも、楽しいことで溢れているような中学校生活ではありませんでした。

そんな私が、今のように人前で堂々と話せているのは、高校時代に所属した放送部での影響がとても大きいです。野球部という甲子園のように、放送部にはNHKが主催する全国大会があり、その大会に向けて他の部員と協力しながらテレビ番組を作成していました。テレビ番組を作成する際には、教職員の方々、

他の部活動に所属する生徒、ときには地域の民間企業などたくさんの人に取材交渉や出演依頼をし、インタビューなどを行う必要がありました。入部当初の私は、クラスメイトと話すことすら緊張するのに、インタビューなんて無理だと思っていましたが、インタビューができなければ番組が完成しませんから、やるしかありません。最初は先輩に付き添っていただきながら、とても緊張する中でのインタビューを行っていました。しかし、回を重ねるごとに「良い番組を作りたい」という思いのほうが、緊張や不安を上回るほど強くなり、初対面の方であってもいつしか、あまり緊張せずにインタビューを行うことができるようになりました。この経験から、今では初対面の方であっても以前ほど緊張せずに話せるようになってきています。

部活動に勤しむ高校生活を送るなかで、進路選択はスムーズにはいきませんでした。昔から子どもが好きで、中学生の頃には夏休みに川越町の児童館で行われるボランティアに参加するほどであったこともあり、子どもにかかわる仕事をしたいとは思っていましたが、子どもにかかわる仕事は世の中にたくさんあります。様々な職種を考える中で、子どもの心と体、両面から支えられる養護教諭という仕事にとっても魅力を感じ、志望しました。そして、中学校時代に私が悩んだときのように、人間関係などで悩んでいる子どもたちに少しでも寄り添うことでチカラになれることがあるのではないかと考えました。

大学生活はいわゆるキラキラしたキャンパスライフとは程遠く、課題と実習に追われる日々を過ごしています。大変だと思ふ日が無いと言えば嘘になりますが、そんなときにこそ夢をかなえた自分の姿を思い描いて、自分自身を奮い立たせています。そうすると「もう少しやってみよう」「今を一生懸命に頑張ってみよう」という気持ちがあふれてきます。

中学生の頃は、大学生になった自分の姿など全く想像できませんでした。皆さんはどうですか。約5年後、どこでどんなことをしているか、想像できますか。想像できない人の方が多いのではないのでしょうか。

想像できないということは、何にでもなれるということだと私は思います。皆さんの未来は、皆さんが想像している以上にきっと明るいと思います。皆さんのご活躍を心から願っております。

最後に、教育実習生として担任業務としてお世話になった2年1組での最後の日にお話をしたことを伝えたいと思います。

「みなさんには、自分を応援できる人になってほしいです。何かに立ち向かう時、周りの人もきっと応援してくれると思いますが、努力が必要な時に、必ずしも誰かがそばでいつも見守ってくれているとは限りません。そんなときにこそ、『自分で自分を応援する』。自分で自分を応援できる人こそ、目標に向かって頑張れる人だと考えます。みなさんには、自分を応援できる人になってほしいと思います。私もまだまだ勉強をします。

何よりも、3週間お世話になった川越中学校の生徒のみなさん。そして、3週間の教育実習においてご指導いただいた先生方に心より感謝いたします。これからも引き続きご指導をお願いいたします。

森 柚香